平成２６年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	元風ネット
議員名	金濱　元一　・　南川　達彦
調査実施年月日	平成26年4月23日
調査先　自治体名等	富山県高岡市
調査項目	アクティブシニア構想
調査目的	団塊の世代のまちづくりについて
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口：176，259人（H26．3月現在）　　行政面積：209．42k㎡ 2　視察内容 高岡市経営企画部都市経営課　課長補佐　土倉様にお話をうかがった。 ●アクティブシニア構想について 高岡市の高齢化率が、2025年に30％を超えると予想されている。市として将来の高齢化社会に向けて、活発（アクティブ）な高齢者（シニア）を増やしていくことで社会全体を活性化することを目標にし、アクティブシニア構想を策定した。 構想の前段として、H24 年度に意識調査・シニア懇話会などを経て、パブリックコメントを行っている。 H25 年度には、アクティブシニアという言葉・考え方の定着を目的にケーブルテレビ局での番組制作し周知を図る。また活動を活発にするために、コミュニティビジネス講座や商工会議所に委託してセミナーの開催なども行っている。 今年度は、アクティブシニア構想の事業拡充を狙い、前年度の活動以外にシニア世代の活動を積極的に行ってもらうために、利便性のよい街中の公共施設などを開放し、活動には補助（上限5万円）も行う計画。さらに前年度のコミュニティビジネス講座だけではなく、事業化を図るために起業助成（上限20万円）も行っている。 課題として、コミュニティビジネスという言葉のビジネスという部分にリスクを感じ、高齢者の関心が向かず、参加者が若者主体になってしまっていることがある。
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	本市においても、団塊の世代の方の人口比率は高く、今後の本市まちづくりにとって退職後の団塊の世代の方は大変大きな影響力を持っています。 本市の高齢化率は、高岡市よりも高く、団塊の世代の割合も非常に大きいという背景を考えると、高岡市のように団塊の世代の方の力をまちづくりに向けていただくための施策は大変に重要であります。 そのための方策として、コミュニティビジネスの活用は有用であると考えるが、高岡市の課題にあったように、高齢者の方が新しくビジネスとして取り組むのは難しいのであれば、企業者は若者であり、一緒に活動するのが高齢者という形を作ることが出来れば、高齢化率が高い本市にとっても有用な施策になるものと考える。 本市でも、アクティブシニアを活発化だけではなく、高齢化社会を見据えてコミュニティビジネスを活発化させるため起業支援なども行うよう提案していきたい。